

2014年（平成26年度）複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	Ⅱ-4(3) 健康で安心して暮らせる社会の構築(化学物質のリスク管理を推進するために)	施策 No.	25	施策名	化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進
-----	---	--------	----	-----	-------------------------

目的、内容	化学物質による環境リスクに関する科学的な知見・情報を府民・事業者・行政が共有し、相互理解を深めるための対話である「リスクコミュニケーション」の取組を推進 府は、府域の環境リスクを管理するという立場から対話の場を設け、対話を推進（化学物質に係る情報提供、リスクの客観的な評価、府の取組方針の説明等）				
副次的効果、外部効果等					
関係法令、行政計画等	PRT法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律） 府生活環境保全条例、府化学物質適正管理指針 土壌汚染対策法				
国等の政策、社会情勢等					
施策実施に要したコスト（職員人件費を除く）	事業のコスト（千円）		2011年度（決算額）	2012年度（決算額）	2013年度（決算見込額）
	環境目的の事業費	本施策が主たる目的であるもの	0	0	0
		本施策が従たる目的であるもの	76,766	31,361	11,179
	環境以外の目的を含む事業費		0	0	0
取組指標及び実績 （施策効果の定量評価）	名称	把握方法	実績		
	① リスクコミュニケーションに関するセミナー等の開催	セミナー等の開催実績の集計	2011年度 化学物質対策セミナー（531人）、パネルディスカッション「土壌汚染に係るリスクコミュニケーションの推進」（98人） 2012年度 化学物質対策セミナー（423人）、パネルディスカッション「土壌汚染に係るリスクコミュニケーションの推進」（75人） 2013年度 化学物質対策セミナー（483人）、		
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況	
	事業者への働きかけ				
	大規模事業者に対する働きかけ（約50社） 中規模事業者に対する働きかけ（約200社） 化学物質対策セミナー（事業者向け）の実施	☆☆	化学物質対策推進事業	化学物質対策セミナーを毎年度1回、大阪市・堺市と共催で開催し、リスクコミュニケーションの実施事例を紹介。 出席者数：531人（2011年度）、423人（12年度）、483人（13年度）	
	レスポンシブルケア協議会主催の会議において事例紹介	☆☆	同上	レスポンシブルケア委員会の会員企業のリスクコミュニケーション実施事例を府ホームページにて情報提供	
	NPO・市民団体等との連携				
	働きかけを行った事業者とのリスクコミュニケーションの実施 化学物質対策セミナー（NPO・市民団体等向け）の実施	☆☆	土壌・地下水汚染対策推進事業	2011年度：講演会、リスクコミュニケーションに関するパネルディスカッション（リスク管理について）の開催 2012年度：リスクコミュニケーションに関するパネルディスカッション（環境リスクと土地活用方法）の開催	
	情報の整理・場の提供・対話の推進				
	情報の整理・提供	☆☆	化学物質対策推進事業	化学物質の排出量及びリスクコミュニケーションに関する情報をホームページに掲載	
場の提供・対話の推進	☆☆	化学物質対策推進事業 土壌・地下水汚染対策推進事業	上記セミナー、パネルディスカッション等の実施		
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗／☆☆計画どおり／☆計画以下の進捗／△計画とは異なる事業内容で進捗					
評価	評価	理由等			
	施策目的の達成状況	計画どおり進捗			
	事業・工程の進捗状況	計画どおり進捗			
計画見直し又は改善事項	見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等			
	目標	無			
	施策の方向・主な施策	無			
	工程表	無			
	その他の改善事項	無			
関係課室	環境管理室				

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	点検評価の手続きについては、概ね妥当である。ただし、評価欄中の目的の達成状況項目には何らかの自己評価があるべき。 ※対応・修正済	施策目的の達成状況欄への自己評価の記載は必要。それ以外の評価はおおむね妥当。 ※対応・修正済	見直し・改善については、事業の実施ごとにアウトカムを評価するためのアンケート調査も組み入れるなど改善が必要である。